

令和3年度 学校評価報告書1 (計画段階・実施段階)

学校名		福岡市立福岡高等学校		学校経営方針・学校教育方針		今年度の重点目標		評価(総合)	
学校長	ふりがな	さきき	てつろう	志を持ち、自らの目標を達成しようと努力する生徒と、意欲的・建設的に学校運営に参画する教職員の協働により、「熱・意欲・力」の校訓を具現化する学校をつくる。 そのために、すべての教職員が元気で生徒が安心して学べ、成長できる学習環境づくりと学力向上による進路実現をめざし、生徒に誇りと自信を持たせる教育活動を実践する。 また、市民からの期待と信頼をさらに高めるために、「福岡改革サードステージ」第2章を推進し、本校の新たな歴史を切り開く学校づくりを進める。		(1) 進路実現の推進と部活動の活性化: 生徒の進路実現を最重点課題とし、ガイダンス機能の充実を図るとともに、各々の進路に応じた学力の定着を図る。部活動の活性化を推進する。(体制、実績、活動内容等) (2) キャリア教育の推進: 総合学科高校として「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」及び「ジュニア・アチーブメントプログラム(ジョブシャドウ・SCP・ミーズ)」に全教職員で組織的に取り組むとともに、SDGsチャレンジプロジェクト、キャリアデザイン等、キャリア教育の推進を図る。 (3) 授業改善・授業改善の推進と教職員の育成: 授業改善工夫につながる校内研修会を計画的・組織的に取り組む。また、市立高校の将来を担う若手教師を、ひとりの社会人、ひとりの教師として全教職員で支援育成する。 (4) 組織的な学校運営と危機管理の徹底: 「すべては生徒のために」を常に意識し、教職員の持っている力を結集して、各部・各教科等が連携し、組織的に生徒の指導や学校運営にあたることに、日常的に危機意識をもち、起こりうることを想定しながら教育活動を行う。 (5) 人材教育の更なる推進: いじめをはじめとし、あらゆる差別を見抜き、差別をなくしていくための行動ができる生徒を育成するために、教育活動全般において「人権感覚」を高める取組を推進する。また、自分を大切にするとともに他者を大切にするとともに、学校風土を生徒教師一丸となって醸成する。		B B	
校長本校在任年数	氏名	佐伯	哲郎						
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな	かわぐち	みよじ	氏名	川口	三代次			

昨年度の成果と課題 【成果】①コロナ禍における工夫(休校措置に備えリモート授業実施計画および使用マニュアルの完成、webexによる学習指導やHR生徒総会等の学校行事実施)、②新学習指導要領にともなうカリキュラムの完成、③SDGsチャレンジプロジェクトの実施、等。
【課題】①コロナ禍による経験と本年度に生かす(ICT機器活用による授業、HR、学校行事の効果的実践)、②サードステージ第2章の改善・発展、等

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的な方策					
教育課程・学習指導	主体的・対話的で深い学びが得られるような授業改善を図る。また、オンライン学習構築にむけ、ICT機器を積極的に活用し、授業効果の改善を目指す。生徒の学習意欲を高めるとともに、個々の生徒の進路実現を目指す。	ICT機器を用いて、授業の効率化を目指し、深い学びを得られるような授業改善につなげる。 今回の新型コロナウイルスの感染防止に伴う長期に渡る休校措置や出席停止などに対応できるように教育指導体制を構築する。	B A	コロナウイルス感染防止に伴う休校措置中における学習機会の確保のため、全授業におけるオンライン授業を実施することが出来た。今後は、更なるICT機器の活用で、生徒の興味関心を深めていくような授業改善を行っていくことが課題である。	B	・コロナ禍により、ICT機器のハード面は徐々に整備されてきていると思いますが、それを使用して効果的な授業を検討する先生方の努力には頭が下がります。 ・オンライン授業では受動環境となる。質問や議論する時間を多めにとって頂きたい。 ・オンライン授業のさらなる向上・改善を目指したい。	・観点別評価と新しいカリキュラムに向けて準備を行い、各教科に問題意識を持って取り組むこと。また、全職員が授業支援は、非常勤の先生方も含めて、順調に行うことが出来た。
	新教育課程の編成作業を行うとともに、観点別評価の導入に向け、積極的に対応する。また、入試改革に伴い、入試の方法を改善していく。	新教育課程の作成と観点別評価の導入を行うために調整と実施実験を行う。 推薦入学者カルテを利用し、今年度も継続して、推薦入学者の面談を行い、入試の改善につなげる。	B A	推薦入学者の面談を行い、成績の推移や進路目標の確認などを行い、今後の特色化選抜における改善へと繋げていく。観点別評価の実験実施を行っているところで、これを踏まえて本校に適用する方法を模索するのが今後の課題である。	B	・コロナがどんなにひろがっても、学校運営は止めない日本です。ICT活用など今までなかった授業方法の模索は大変だと思う。 ・初の特色化入試も大変多くの志願者があり、福岡の地域における信頼の厚さを感じる。	・推薦入試を無くし、特色化選抜を新たに持って日本です。ICT活用など今までなかった授業方法の模索は大変だと思う。 ・初の特色化入試も大変多くの志願者があり、福岡の地域における信頼の厚さを感じる。 ・新教育課程の取り組みも、共通テストの変化に伴って考えていく必要がある。
生徒指導	規範意識の高い生徒を育てる。	自転車通学者に対し、登下校、駐輪、交通マナー指導を定期的に行い、主体的に行動できるようにさせる。 生徒には、その場に応じた挨拶や状況に応じた適切な行動を身につけさせ、学校外でも地域の方々に愛される態度を育成する。	B B	交通安全教室や門頭指導等を通して、交通マナー指導を実施している。接触事故にあった場合の対応も身に付けていると感じられる。地域住民からの声はしっかりと受け止め、学校側で出来ることを一つずつ実践していく。	B	・会議では、地域の方からよく話題にのぼる交通安全ですが、地道な努力も水の泡になってしまいます。粘り強く継続的な取組を今後とも期待しています。 ・地域環境への配慮や交通マナー指導の充実をお願いします。 ・交通安全について地域の声をしっかりと受け止めて指導している。 ・加害者にならない指導をお願いしたい。 ・挨拶もしっかりできており、礼儀正しく好感が持てる。また、下校時の自転車問題もかなり改善できたものと評価する。	自転車通学のルールやマナーの徹底は、毎年の課題になっている。交通安全教室や門頭指導、下校指導を先生方のご協力を得ながら定期的に行っており、一定の成果は出ていると感じています。今後も継続的に地域に沿った指導を心掛ける。
	「福岡高校いじめ防止基本方針」に基づき、総合的かつ効果的にいじめ防止を推進する。	定例の(月1回)「いじめ防止対策委員会」とその事務局において、未然防止、早期発見、早期解決等にあたる。 生徒がネットによる被害者・加害者にならぬよう、情報端末機器を適切に扱う力を身につけさせ、互いに認め、支えあう人間関係づくりを推進する。	B A	いじめ防止対策委員会や事務局において、定期的な情報共有ができています。SNSによる生徒間のトラブル防止のため、SMSやグループライン安全教室を実施し、ネットパトロールでの指導を定期的に行っている。情報端末機器を適切に扱えるよう、継続して指導していく。	B	・いじめ防止対策委員会や事務局において、定期的な情報共有をこれからも続けていく。生徒の取り巻く状況は複雑で難しくなっており、学年、担任、全体でサポート体制を作り、丁寧で素早い対応を心掛ける。	
進路指導	生徒一人一人の進路保障を目指し、適切な指導・助言を行う。	生徒の進路保障のための課外や補習を計画的に準備して、円滑に進める。 学部と進路指導課の連携を強化し、進路指導課からの情報発信を積極的に挙げる。	A B	課外・補習については例年通り行うことができたが生徒の課外に対する意識は年々低くなっており、改革が必要である。学年部と進路指導課との連携は3年部とは出来ていると思われるが、1・2年生についてはまだまだ改善が必要である。	B	・大学進学がすべてではないと。将来の目標をみつけるキャリア教育のさらなる充実をお願いします。	今年度は課外の申込みが少なく、これからの運営については一考を要する。「進路の手引き」を廃止し、H1Pに移行したことでタイムリーな発信が可能になったので今後も更新し続ける必要がある。小論文・面接の態勢の改善が必要である。
	「産業社会と人間」と「総合的な探究の時間」を中心にキャリア教育を展開し、生徒一人一人の進路実現に向けて必要な力を身につけさせる。	希望進路実現のための取り組みを円滑に進める。また、「福岡サードステージ第2章(3本の矢)」を進める。 「甲斐学校、大学との交流」「部活動集会」「ホームページのリニューアル」等、学校の取組について積極的な発信を行う。	A A	スポーツ・文化プログラムについては、進路保障に一定の成果を上げている。グローバル経営プログラムについても成果が期待できる。ホームページのリニューアルを行うことができた。さらなる広報活動や発信に工夫を加えていきたい。大学との交流とコロナ禍の中、対策を講じながら行うことができた。	A	・大変期待している。より良い成果を目指し頑張ってもらいたい。 ・グローバル経営も熱心に取り組まれており、まさにグローバルな視点を持つ生徒育成に大きな効果が期待されます。	希望進路実現のための取り組みとして、「福岡サードステージ第2章(3本の矢)」を引き続き進めていく。改善点があれば改革検討委員会でも検討していきたいながら取組を円滑に進めるようにしていきたい。
学校改革	主体性の育成を目指すキャリア教育の推進を図る。また、Googleクラスルームを積極的に活用するなどしてICTを積極的に活用する。	SDGsチャレンジプロジェクトを実施し、ICTを積極的に活用しながら活用を図る。また、職員研修などを行いICTの活用を図る。 ジュニア・アチーブメントプログラムの効果的活用と「SCP」の活動充実。「SCP活動積極的発信」に努める。またアジア大会への参加を目指す。	A A	SDGsチャレンジプロジェクトは中間発表、最終発表を行い、体系的な流れを構築できた。ICTの活用については、機器の確保で、十分な研修が行えなかった。 ジュニア・アチーブメントプログラムでは、SCPアジア大会への出場を果たすことができた。SCPの商品作りもSDGsを意識しながら進めている。	A	・チャレンジプロジェクト等はむしろ大学等が見習うべきものであり、素晴らしい取り組みである。 ・SDGsの視点は、これからの社会を支える世代には欠かすことができないものです。素晴らしい取り組みだと感じる。	チャレンジプロジェクトについては、ICT機器の活用面で研修を充実していくとともに引き続き取り組んでいく。 ジュニア・アチーブメントプログラムについても、特にSCPについては改善を重ねていけるよう充実したものにしていきたい。学校の特色として引き続き取り組んでいく。
	サードステージ第2章を円滑に進めるとともに、キャリア教育などの特色ある取り組み内容を積極的に発信する。 ・3本の矢の推進、充実・改善を図る。 ・ホームページやSNSを活用し、学校の取り組みを積極的に発信する。	希望進路実現のための取り組みを円滑に進める。また、「福岡サードステージ第2章(3本の矢)」を進める。 「甲斐学校、大学との交流」「部活動集会」「ホームページのリニューアル」等、学校の取組について積極的な発信を行う。	A	スポーツ・文化プログラムについては、進路保障に一定の成果を上げている。グローバル経営プログラムについても成果が期待できる。ホームページのリニューアルを行うことができた。さらなる広報活動や発信に工夫を加えていきたい。大学との交流とコロナ禍の中、対策を講じながら行うことができた。	A	・大変期待している。より良い成果を目指し頑張ってもらいたい。 ・グローバル経営も熱心に取り組まれており、まさにグローバルな視点を持つ生徒育成に大きな効果が期待されます。	希望進路実現のための取り組みとして、「福岡サードステージ第2章(3本の矢)」を引き続き進めていく。改善点があれば改革検討委員会でも検討していきたいながら取組を円滑に進めるようにしていきたい。
特活指導	集団活動を通して、自主的・実践的な態度を育てる。	文化祭・体育祭・予備会などの行事を、生徒会が中心となり、自主的な企画・運営ができるように支援する。 規律ある自主的、主体性ある取り組みができるように指導・支援する。	A B	昨年は学校行事が中止となり、生徒会の企画運営の引継ぎが懸念されたが、新しい発想のもと今年度にはない行事を開催することができた。今後の行事の新しい在り方につながるのではと考える。	A	・コロナ禍というピンチをまさにチャンスに換える態勢を構築された。 ・「まず「愛校心」を育てれば必ず結果はついてくる」と思われる。 ・できない理由はいくらでもある。やれる方法を考える事はとても素晴らしい。生徒たちも良い経験になったと思う。	生徒会の諸行事は全生徒で作るのだという感覚を浸透させた。ICTを大いに活用し、意見やアイデアを受け取り、コロナ禍からこそ新しい行事を創り共有する喜びを味わわせたい。諸活動についてSNSで発信し、広報の一助とする。
	体育部・文化部の活動の更なる活性化を目指す。	定期的な部活動顧問会議を開き、規律ある一貫した指導ができてきたことにより、情報共有等に努める。 部活動加入率90%以上を目指し、部活動生が学校の真のリーダーとなるように研修を行い育成する。	B A	緊急事態宣言の発出により、夏季から初秋にかけての指導ができてきたことに関わらず、各部工夫を凝らして結果を出している。部活動生がリーダーとなり、規律ある学校生活を送り、より活性化につながるようにつとめた。	A	・コロナ禍での部活動大変だと思いが、参考資料の部活動成績により頑張っていることを拝見した。 ・毎年部活動では素晴らしい成績をおさめ、感心している。特待で集めたわけでもないのにこの成果を出している指導方法に大変関心がある。	歌歌指導や挨拶指導、ゴミ処理清掃指導など上級生が下級生を指導していく体制を整えるために、生徒会執行部による部長会を活性化したい。また次年度からキャリアと連携し、コンポスターの運営に取り組み。資源の有効活用を実現してもらいSDGsへの興味関心を高めたい。
保健環境美化	ウイルス感染症の予防を徹底し、心身ともに健康的に学校生活を送ることができる力の育成を目指す。	毎日の健康観察で体調及び出席状況の変化を把握する。配慮が必要な生徒にはいじめ防止対策委員会を中心に支援を行う。 防災避難訓練やAED及びイベント研修を実施し、安全な学校生活を支援する。	A B	毎日、健康観察で生徒の体調を把握し必要な生徒への対応を講じている。防災避難訓練やAED研修はコロナ禍での実施とあって、円滑に実施できた。	B	・感染防止対策は日々の努力、敬意を表する生徒の実態把握に努める。 ・今年度の防災避難訓練は視覚的状況を取ったが、内容は内容の検討が必要である。	・健康観察や担任からの気づきを通して生徒の実態把握に努める。 ・今年度の防災避難訓練は視覚的状況を取ったが、内容は内容の検討が必要である。
	身の回りや校舎内外に対する環境美化意識を持ち、心豊かに学校生活を送ることができるよう支援する。	日々の清掃活動の中で生徒会や福祉委員会を中心にゴミ処理やリサイクルを推進していく。 コロナ禍の中、可能な限りPTAと連携し、花いっぱい運動など環境美化に努める。	A	清掃活動の一環としてゴミ処理を行っているが、今後も混入ゴミの対応に努力していく。PTA行事である「花いっぱい運動」は今年度は1月実施予定で準備を進めている。	B	・植物・動物を愛する心を育ててほしい「花への声掛け等」 ・コロナ禍での保健環境美化活動で大変な苦労があったと思う。PTA活動の実施は素晴らしい。	混入ゴミの対応は継続して検討する。校内美化の一環である「花いっぱい運動」はクラス福祉委員、ボランティア等の協力により無事実施することができた。
1学年	基本的な生活習慣を確立させるとともに、主体的に学習や活動に取り組む姿勢を育てる。また、進路実現のために必要な基礎学力を身につけさせる。	「産業社会と人間」の授業やLHRの活動を通して、将来に向けて目標設定をさせ学習意欲を引き出す。 規則正しい学校生活を送らせるとともに、計画的かつ継続的に家庭学習に取り組ませる。	A B	産業社会と人間の授業や学年の進路指導を通じて、将来に向けて考えさせる機会を設けるとともに、コース選択のための説明会と面談を行った。学習の計画性や継続性を高める指導が今後も必要である。	B	・総合学科として「産業社会と人間」を基準として学習計画が立てられている。 ・コロナ禍でなかなかお互いの人間関係が築けないと思うので打ち解けあえる環境づくりをお願いしたい。 ・中学とは異なる新しい環境だからこそ自分を変えるチャンスである。	「産業社会と人間」の授業を中心に、将来の夢や目標につながるコース・科目を選択できるように進路指導を展開したい。多くの生徒が自分の将来像を描くことができた。進路実現のための確かな学力を身につけていくことが重要であることを認識し、努力を継続していく必要がある。
	集団への帰属意識を高め、福岡生としてふさわしい態度を身につけさせる。	本校の伝統や校風を理解させ、福岡生としての意識を持たせようとする。 集団への帰属意識を高め、学年団の和を育てる。また、安心して学習できる環境づくりに努める。	B B	集合時間、課題の提出期限といった時間に遅れるという点に課題が残る。指示される前に動く、指示されなくても動くという意識を持っていくように、福岡生としての自主性と行動力を育てていきたい。	B	自ら考えて行動する主体性を育てる教育活動を心がけてきた。しかしながら、指示待ちで、受け身の傾向があり、注意されなければ気づかないなど課題は多い。状況に応じた正しい判断力を身につけさせ、行動できるようにさらに指導していきたい。	
2学年	基本的な生活習慣の確立とともに、基礎学力の定着を図り、進路実現に向けた基礎を強化する。	学年の指導の重点に置いている。時間を守ること、5分前行動を励行することの指導を徹底し、文武両道に努める環境を作る。 進路目標を明確化させるとともに、思考力や判断力を伸ばすためにコミュニケーション能力を高める。	A B	朝の8:35着席完了に取り組み、概ね落ちた状況で朝のLHRを実施できている。一方で、朝学習に取り組んでいるが、慣れもあって、取り組みが不十分な生徒が見受けられたので、意義を足踏確認などの取り組みを行いたい。	B	・将来のためのキャリア教育のさらなる充実をお願いしたい。 ・今年度では縮小版だったものの、SCやSSWについても、取り組みが不十分な生徒が見受けられたので、意義を足踏確認などの取り組みを行いたい。	3年次生として、進路目標を明確化させ、進路実現に向けた意欲を育てたい。特に丁寧な面談を実施し、教師と生徒の信頼関係を醸成するとともに、担任の連携を図り、進路に関する情報を適切に共有したい。
	学校行事に積極的に参加し、集団への所属意識を高めさせる。	各行事において、一人ひとりにリーダーシップと協力のあり方を理解させ、集団への所属意識を高めさせる。 研修旅行の意義を理解させ、積極的に参加する態度を促し、成長した姿や態度を実感させる。	B C	体育祭では大半の生徒が学年種目のみの参加となったが、参加意欲は見受けられた。研修旅行は2学期末の実施予定であり、事前指導にもしっかりと取り組むたい。	B	・体育大会、研修旅行とコロナの影響を受けており、その中にも前向きな取り組みがあり、生徒たちも目標を見失うことなく生活できている。 ・研修旅行は2学期末の実施予定であり、事前指導にもしっかりと取り組むたい。	目標や行先を変更した上で研修旅行を実施することができた。生徒は意欲的に行動した。この経験を次年度の文化祭や体育祭に活かす。学校行事を引っ張るとともに、伝統の継承していく価値を感じさせたい。
3学年	進路実現のために適切な進路指導を行う。	三者面談をはじめ、二者面談を実施し、生徒の実情に合った丁寧な指導をめざす。 高い進路目標を持たせ、その実現のために、自立した態度を育成する。	B B	LHRを積極的に活用し、面談を行っている。より良い受験スケジュールが立てられるよう担任・生徒間のコミュニケーションを密にしてきた。これから一般入試に向けての計画立案に向けて改めて面談を実施していく。	B	・高校3年間で身につけた行動や姿勢がよく発揮されていると感じた。 ・今年度もさらさら進路実績が期待できる。 ・自分らしい人生の目的さえあれば自主的に生徒は努力する。受験テクニックよりもそのようなことを教えてほしい。	・体育祭以降、二者面談を積極的に実施してきた。各生徒の将来就きたい職業も意識した大学・学部・学科選択を指導してきた。保護者の考えも踏まえつつ入試計画を立てている。
	最高学年としての自覚を促し、後輩の示範となる言動を積極的に示す。	あいさつ・時間厳守・気配りを中心に、日常の中で随時指導し、自立した態度を身につけさせる。 落ち着いた学校生活を送らせながら、後輩に良い伝統を継承していく価値を確立させる。	B B	挨拶修行、5分前行動、他者への気配りについて1年次より一貫して指導を継続している。体育祭では縮小版だったものの、プロダクトで協力して全力で取り組む姿勢を後輩へ示すことができた。	A	・学年の三原則「挨拶修行・時を守る・他者への気遣い」を3年間一貫して継続することができた。校訓の熱・意欲・力のもと、生徒が文武両道を実践することができた環境を整えることができた。	
人権教育	本校が抱える人権に関する諸課題に対応する職員研修会を企画し、人権尊重の精神の涵養を目指し、人権が大切にされた環境を創造する取り組みを推進する。	人権教育全般の指導内容と方法を検証し、本校の抱える人権に関する諸課題に対応するよう改善を図っていく。 校内職員研修のさらなる充実を努め、全教職員に気になる研修を促す。	A B	職員研修については、人権感覚を磨くために人権委員の知識だけでなく、人の関わり合いテーマでアサーティブ研修を行った。特設人権学習は各学年の先生の工夫もあり、生徒にとって、より主体的・効果的な内容・手法を研究し、取り入れて実施した。	A	・格差社会やコロナによる貧困等により、家庭環境でのストレスや困りごとに対して直接的影響を受けやすい子どもたち。SCやSSWと一緒に先駆けて生徒との面談を学校をあげて取り組んでおられる体制は、大いに評価できる。 ・生徒とのコミュニケーションを良くして生徒の本当の気持ちを理解できるように努力していただきたい。 ・不登校など教育以外の問題への取り組みなど大変だと思う。 ・他者への思いやり、配慮を学ぶことは、このような世の中において必要不可欠なものである。それを大切にしている。対話もまた教育の基本である。	・更なる職員研修の充実を目指し、講義型の研修だけでなく、教員間、双方型の研修を受けやすいこと、また、全職員一丸となって人権が尊重される環境づくりを行っていくために、教員間のコミュニケーションの意を深めたい。 ・教職員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーで「気になる生徒」についての情報を共有し、協働して生徒に寄り添い、更なる人権教育の推進に努めたい。 また、ベテランと若手教員を交えて、生徒の関わり方について深める機会を作っていく。
	教育相談活動の充実をはかり、実効的な活動を推進する。	気になる生徒の早期把握と情報共有化を推進し、SC・SSWと連携して不登校等の生徒数を減らす。 通級指導教室の運営を通して、全職員に特別支援教育の視点に立った教育活動の推進を図る。	B B	不登校傾向の生徒への対応を効果的にするため、SC・SSWと連携し、情報共有の場を設けてきた。SC・SSWの活用も、多大な助力をいただいた。通級指導についても、円滑かつ効果的にいった。担任・SC・SSWの面談を行っているが、面談が必要な生徒が年々増えているので、生徒とゆとりと話す時間を確保していく。	A	・格差社会やコロナによる貧困等により、家庭環境でのストレスや困りごとに対して直接的影響を受けやすい子どもたち。SCやSSWと一緒に先駆けて生徒との面談を学校をあげて取り組んでおられる体制は、大いに評価できる。 ・生徒とのコミュニケーションを良くして生徒の本当の気持ちを理解できるように努力していただきたい。 ・不登校など教育以外の問題への取り組みなど大変だと思う。 ・他者への思いやり、配慮を学ぶことは、このような世の中において必要不可欠なものである。それを大切にしている。対話もまた教育の基本である。	

※ 学校自己評価は、5段階評価(A…目標を大幅に上回る達成度、B…目標を上回る達成度、C…目標どおりの達成度、D…目標を下回る達成度、E…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。
※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A～E)で評価すること。